

## ご挨拶

新年おめでとうございます。

今年もよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症が収束せず、東京都などに2回目の緊急事態宣言が発令されましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。寒波襲来で大雪に見舞われた地域の皆様は被害を受けることなくお過ごしでしょうか。

暮れに、大学から歩いて行ける国分寺市東元町にある補聴器等の音響機器を製造しているリオンから、「2020年心に残った音」が発表され、「緊急事態宣言により閑散とした繁華街、観光地などの静けさ」が選ばれました。去年1年をよく表している

と思いますが、今年は、誰もが活気づき、元気が出るような音が選ばれる年となりますことを祈っています。

1月16, 17日は今年から始まった大学入学共通テストが実施され、これから入学試験シーズンに突入します。お子様が受験される方もいらっしゃると思います。受験生は、コロナ禍の中、受験勉強もさぞ大変だったと思います。受験生の皆さんを応援します。

皆様、コロナに負けぬよう、どうぞ十分ご自愛ください。

(辟雍会会長 長谷川 正)



## コロナ禍の国際交流

2020年は世界的に大変な1年でした。本学も試練に直面し、派遣・受入れの学生にとっても厳しい1年となりました。私がアジア地域を中心とする本学の国際交流に関わることから、留学とそれを支える教職員の視点から振り返ってみます。

昨年2月の段階でアジア地域に留学している学生は、新型コロナウイルスの影響により、緊急帰国するか現地に留まるかの選択を迫られました。国の感染症危険情報レベルの引き上げで、日本学生支援機構(JASSO)は早々に派遣学生への奨学金を停止しました。アジア地域への留学は前年の9月頃に開始し、6・7月頃に帰国するものが多いですが、派遣学生は短期間のうちに、留学を短縮・中断するか、日本または第三国からオンライン授業を受講するか、はたまた、現地に留まるかを決めなければなりません。一番しんどいものでは、香港の民主化を求める市民運動に際し、2019年11月に緊急帰国をよぎなくされた学生が後半 semester (2020年春季)の受入れ先として決まっていた中国の大学に、新型コロナウイルスの拡大で留学できなくなるという例もありました。こうした前例のない過酷な環境の中で、本学学生は事態と真摯に向き合い、適切な対応をとってきました。本学の国際課の職員の多大な尽力と臨機応変な対応も、特筆される点でしょう。

昨年10月28日に2019年度本学からアジア地域に派遣された学生の最終発表会がオンラインで開催されました(CAMPUS Asia 兼 JASSO「アジアの教員のグローバルな力量向上に向けた双方向プログラム」派遣学生最終発表会)。オンライン授業はす

でに本学でも昨年5月以来定着していました。Zoom や Microsoft Teams 等によるオンライン授業や交流が、このように実現するとは、これまで想像もしませんでした。そ



の意味での変化は大きいのですが、この発表

会は予想した以上に引き締まった会となりました。それは、(もともと留学とは大変なものであるのですが)特に過去にない苦しい経験を経て、2019年度派遣学生が成長したのだろうと私は考えています。ひと回りもふた回りも大きくなった学生の姿をみて、教職員は感動しました。この最終発表会は、コロナ禍の学生支援や国際交流を考える機会として本学教職員のSD研修にも指定されました。Web会議システムでの開催も功を奏し42名の本学学生・教職員の参加がありました。この会の様子は、『文教ニュース』にも掲載されています(令和2年11月16日第2624号)。

それ以外にも新しい挑戦は続いています。本学が教員養成系大学・学部の中で唯一採択されているキャンパス・アジア(文部科学省「大学の世界展開力強化事業」2016年度~2020年度)において、コンソーシアムを組む韓国のソウル教育大学校との間では、オンライン語学交流プログラムが行われました。11名の本学学部生・修士課程院生がソウル教育大学の学生とペアになって、Web会議システムを使用しおよそ2カ月間、交流を深めました。1月下旬にもソウル教育大学主催のプログラムとして、中国側のコンソーシアムを組む北京師範大学と本学の3大学の修士課程院生が5日間オンラインで集中的に共同学修を予定しています。この活動はWPTC(Winter Program for Trilateral Cooperation)と呼ばれ、昨年・一昨年と対面で開催された行事を、今般の情勢をふまえオンラインに切り替え開催するものです。本学でも、2020年度秋学期の「キャンパス・アジア科目」がオンラインで開講され、北京師範大学と本学協定校の湖南師範大学の学生が日本およびアジアの教育や社会・文化等について学修を進めています。緊急事態宣言が再発令され、終わりのみえない状況にありますが、本学ではさまざまな模索を続けています。

(次世代教育研究センター准教授 下田誠)



## News

### 大学入学共通テスト行われる 1/16~17 国分寺駅から大学へのバス路線新設

大学入学共通テストが行われ、約2500名が本学で受験しました。今年は、マスク・フェイスシールドの着用、手の消毒等の感染症対策が徹底して取られました。

国分寺駅北口交通広場新設に伴い、令和3年1月16日(土)から京王バス路線「武42」が新設され、国分寺駅からのアクセスが便利になりました。(「武42」:国分寺駅北口~早稲田実業学校~本多一丁目~貫井北町五丁目~学芸大正門~JR車庫前~貫井北町一丁目~貫井北町~本町五丁目~武蔵小金井駅北口)



国分寺駅北口交通広場